回 答 書

第25回京都市元離宮二条城保存整備委員会（令和5年3月10日開催）

番号	資料	意見内容	回答（修正の趣旨・概要・経緯および編集者の意見）
	頁数		
1	【報告1】 5頁・資1-3 コ 展示・案内設 備	建造物の構造補強の内容をモニターで放映するだけでなく、現地にある、補強柱と梁の部分（代表的な部分だけでよく、見学コースに影響がない範囲で）に説明案内板など、設置できないか。	本丸御殿の廊下はきわめて狭く、説明案内板を見る人で滞留が生じ、毀損事故が起こらないように、観覧手法を工夫していきたい。 見学コースの冒頭のガイダンス施設において、構造補強の概要や、補強柱と梁の部分などの視覚的かつ具体的な説明を行ったり、構造補強の説明パンフレット等を配布する等の工夫をさせていただく。
2	【報告1】 5頁・資1-3 シ 雨戸	透明雨戸の設置に関して、庭園から見た御殿の外観への配慮として、木製雨戸の部分設置について、景観面からの案を示してほしい。	現状の板雨戸から透明雨戸にはめ替える整備では、防災の観点から、透明雨戸のはめ替え枚数は必要最小限に留めつつ、部分的に木製雨戸を残す予定である。これによって、庭園からは、本丸御殿の建物本来の建具がはまった外観を確認することができる。 残す建具の具体的な枚数及び位置等については、実施設計の段階で景観面に配慮しながら検討する。

3	<p>【報告1】 資1-3 その他</p>	<p>本丸御殿公開にあたって、消防水利等、設備関係の再点検が必要ではないかと思われる。(記念物部会で、消防車の寄り付きのための西橋の架け替え等の課題が出されている。)それに合わせて、現在の放水銃や消防設備の位置を踏まえ、それらの使い方、観光客の避難誘導や待機場所について、確認、記載が必要ではないか。</p>	<p>放水銃や、消防設備の使い方や、観光客の避難誘導や待機場所については、城内の消防計画等へ反映させていけるよう検討する。</p>
4	<p>【報告1】 4頁・資1-3 第2項 照明設備の設置、採光の確保</p>	<p>障壁画は非公開時でも亀裂が発生している。常時公開となると毀損の頻度が上昇する可能性がある。環境の条件を確認しながら、慎重に公開を進めて欲しい。</p>	<p>室内の障壁画への影響については、実際に運用をしながら、環境調査を実施し、温熱環境、紫外線、照度等の変化を観察していく。</p>
5	<p>【報告2】 19頁・資2-2 【建造物部会】 重要文化財(建造物)本丸御殿保存修理事業</p>	<p>構造補強工事で、鉄骨柱の掴み金物周囲の隙間(桁つかみ部)については、そのまま存置する方向か。</p>	<p>桁つかみ部の隙間は塞ぐ方向で検討している。 材料の選定にあたっては、地震時等に影響を及ぼさない素材かどうか、構造設計事務所に確認を得て進める予定である。</p>

以上